

1984年1月21日

アメリカ合衆国 駐日大使

[] 殿

大韓航空機墜落遺族会

会長 川名 優 収

拝啓

私達は昨年12月19日付でお手紙を差上げ、アリゾナ州列島に
米軍基地レーダーが捉えている筈の大韓航空007便の航跡データ
をお示し下さるようお願いいたしました。

私達の家族を含めた二百数十名の何ら罪のない尊い人命が、米ソの冷戦の
狭間の中でこのまじやまに葬られてしまったことは、人道に対する反逆
といふ私達は断じて看過することはできません。先便に申し上げました
ように、その007便のあまりにも異常な航路逸脱の真相を究明して頂く
ことは私達遺族の一致した悲願であります。

そしてご承知のことと思いますが、去る1月8日の The Washington Post
Magazine の中で [] 記者が "The Last Flight of KAL 007"
という特集記事を著されました。これは米軍と情報機関は007便の領空侵犯
の全容を十分に知りながら、同様に警告できなかった、という趣旨のこと
が述べられております。事故発生以来私達は、この問題に重大な関心と疑問
を抱き続けて参りました。

大韓航空機墜落事件でソ連の人命軽視と非人道性を激しく非難
し続けてきたアメリカが、実はソ連に劣らず、人命軽視と非人道の国である
とは信じにくくありません。どうか私達の要望や疑問にお答え下さるお
手紙が大統領にもお伝えして頂くべく重ねてお願い申し上げます。

敬具